



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	座長解題(2005年度秋季大会シンポジウム『品目横断的政策と畑作農業』)
Author(s)	樋口, 昭則; 折登, 一隆
Citation	北海道農業経済研究, 13(2), 1-2
Issue Date	2007-03-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/63607
Type	journal article
File Information	KJ00006912320.pdf



〔座長解題〕 2005 年度秋季大会シンポジウム

『品目横断的政策と畑作農業』

樋口 昭 則*
折 登 一 隆**

品目横断的政策は、価格支持政策に代わる政策として農水省が2007年の導入を予定している。作物別に価格に補助金を上乗せして支払われる政策から、麦・大豆・てん菜・でん粉原料用馬鈴薯を対象作物として補助金を一括して農家に支払う政策への転換であり、WTOで許容されている緑の政策（農産物貿易をゆがめない）を目指している。さらに、この政策では、対象となる担い手を限定しており、その経営に対して直接支払いが行われる。10月末に公表された「経営所得安定対策等大綱」では、北海道で10ha以上、都府県で4ha以上の認定農業者が対象とされており、効率的に低コスト生産を行う「プロ農家」に政策支援を集中化しようとする政策である。

十勝の畑作農業は、離農を伴いながら規模拡大を続け、構造改革を実践してきた。しかし、その背景には価格支持政策があり、価格に上乗せされた多くの補助金の上に畑作経営が成り立っている。WTO体制下で、生産刺激的な価格政策は認められず、すべての農家を対象とした作物別の価格政策から、担い手を対象とした所得政策への変更は、受け入れざるを得ない政策転換である。十勝で規模拡大を続け、生き残ってきた農家は、いずれも「プロ農家」といえるような経営を行っており、この新たな政策を享受する条件をそなえてい

ると考えられる。しかし、この政策には、以下の報告で示すように、不明な点や検討すべき課題、問題点を抱えている。

まず、第1報告では、品目横断的政策の共通理解を得るために、帯広畜産大学の澤田 学氏に「畑作物政策と品目横断的经营安定対策－欧米との比較－」と題して、品目横断的政策の概要と課題を欧米との比較もまじえて整理していただくことにしている。

次いで、十勝の畑作経営が、この政策によってどのような影響を受けるのかを検討するために、第2報告では北海道農業研究センターの天野哲郎氏に「新たな農業政策下における畑作経営の展開と課題」のテーマで報告していただく。「大綱」が公表されただけで、具体的な運用について今後の検討がまたれる中、経営モデルの試算を中心として品目横断的政策の影響や問題点、解決すべき課題の整理に取り組んでいただく。

第3報告では、帯広の大正地区で大規模な畑作経営を行いながら、十勝地区農民連盟の委員長で品目横断的政策にも詳しい山田富士雄氏に「畑作農業の現場からみた品目横断的政策に対する評価」と題して、畑作農業を実践する立場からこの政策に対する意見や期待等を論じていただく。

なお、コメントについては、澤田報告に対して北海道大学の山本康貴氏、天野報告に対して道立

* 帯広畜産大学

** 北海道農業研究センター

中央農業試験場の平石 学氏、山田報告に対して北海道大学の志賀永一氏をお願いしている。

「品目横断的政策と畑作農業」のシンポジウムテーマは、北海道農業経済学会が十勝畑作の中心地である帯広で、この時期に開催するにふさわしいテーマであると考え。選挙の影響で「大綱」の公表が遅れたため、報告者には短時間で取りまとめていただくことになったが、開発局による説明会よりも早く、このシンポジウムを開くことになった。そのため、本シンポジウムでは、品目横断的政策に関して共通の理解を得ることを第一の目的としている。

午後の総合討論では、コメント回答に対する再質問も含めて、この新たな政策と畑作農業の展開に関して、ご出席各位の積極的な参加を期待している。

(2005年11月12日以降に判明した施策等については敢えて訂正していない。)